

結束説く岡田氏尻目 発言続々

民主党議員から、イスラム教スンニ派過激組織「イスラム国」による日本人殺害脅迫事件に絡めた安倍晋三首相への批判が相次いでいる。いくら岡田克也代表「似顔」が「政府を後押しする」と強調しても、どこ吹く風。早くもバラバラ感を露呈し、結束を呼び掛ける岡田氏のガバナンス（統治）能力が問われている。（酒井充） 11面参照

民主党が26日に国会内で開いた外務・防衛合同部門会議。長島昭久元防衛副大臣は冒頭、出席議員にこう呼び掛けた。

「所属国会議員の皆さんがツイッターなどで不規則な発言を慎む方向性を共有させていただきたい」

郡司彰参院議員会長も議員総会で「抑制的に、慎重に、それぞれ行動をお願いしたい」と語った。

長島氏の言う「不規則発言」が、同党議員が相次いで政府や首相への批判を展開したことを指すのは明らかだった。この方針は25日の連絡会議で岡田氏ら幹部

が確認した事項でもある。あえてクギを刺したのは苦い経験があったからだ。

「言い換え」事実誤認

岡田氏は21日、記者団に「政府の足を引く張るようなことになっては決していけない」と述べ、事件対応で政府に全面協力する意向を示した。だが岡田氏の声は党内には届かなかった。

徳永エリ参院議員は21日の岡田氏の発言直後、フェイスブックで「いくら人道支援とはいえ、資金援助を大々的に記者会見でアピールする、テロ組織を刺激したことは否めない」と書き

込み、首相に事件の責任があるかのように批判した。桜井充元政調会長は22日のメールマガジンで、首相が17日に行ったイスラム国対策の支援表明に關し「その後この資金の目的を難民支援のためだと言いついていた」と記した。

首相は演説で「イラク、シリアの難民・避難民支援、トルコ、レバノンに支援するのは、イスラム国がもたらす脅威を少しでも食い止めるためだ」と発言していた。「イスラム国と闘う周辺各国」への支援とも語ったが、難民支援は最初から言及しており、「言い換え」は事実と異なる。

「テロ事件利用」投稿

大野元裕参院議員は24日のTBS番組で、避難民支援を「悪意ある人たちに口実を与えた」と批判した。有田芳生参院議員は25日にツイッターで「日本はいま戦後もっとも危険な首相が政治のトップにいる」と投稿。首相が同日のNHK番組で安全保障法制の整備の必要性を述べたことを「テロ事件の利用は明らか」とし、「経験なき戦意がただただ見進る」と続けた。事件に絡めた民主党議員の首相批判に対しては、他の野党幹部も「今は全力を尽くすよう求めるべきで、首相を攻めるのは筋違いだ」と批判している。

日本人殺害脅迫 政府批判に見る野党の現状

民主 → 学級崩壊



談笑する野田佳彦前首相（左）と菅直人元首相。民主党新執行部は党の結束に躍起だが…26日午後、衆院本会議場（酒巻俊介撮影）